“ 雨ニモマケズ、風ニモマケズ
夏ノ暑サニモ・・・”

理事長 髙杉 洋史

ついに福岡県の新型コロナウイルス感染者数は毎日１、０００人以上になりました。当初は子どもたちに感染はないとされていましたが、最近は特に家庭内感染が目立ち、幼児教育機関でも割と報告されたり、幼稚園から感染者が発生したりもしました。

園児の感染を防ぐ為のものですので、ご理解頂きますようお願い致します。

園のケーキ作りの時間の危険性です。濃厚接触者は重視されます。

昼食時間は、お昼ご飯は友達と話をせずに、アクリルシートを机に置く、また導入されたこの点は、やはり子どもたちが食べた後に食事をとることは避けるべきです。

特に教諭は子どもたちに食事時間を味気ないものになりますが、

一緒にしました。楽しい食事時間が起こるとPCR検査をしなければならなくなり、今の社会状況では検査の順番が来るまでにも日数がかかり、検査結果が出るまでにも日数がかかります。そうなると幼稚園の休園日数はどんどん増えます。園児の為にも我慢できるところは我慢して子どもたちの遊びの時間を確保していこうと思います。

様々な場面で職員が使い捨て手袋を着用致しますが、これは職員からの感染を防ぐ為のものですので、ご理解頂きますようお願い致します。

子ども達は暑さにも寒さにも負けず運動場で遊ぶことが大好きです。また友達との遊びはもちろん植物や昆虫とのふれあいの経験が大切です。

私たちは遊びの機会を確保できるよう新型コロナウイルス対策に力を注ぎましょう。大人も子どもも体調の変化があった時は念のため、無理をせず慎重に過ごしましょう。

幼稚園のドングリの木（アカガシ）の枝に立派なスズメバチの巣ができました。お盆休みの雨続きの１週間で、直系１５センチくらいのあの縞々模様の特徴ある巣です。最近はハチが反撃する性質をブロックするスプレーが売られているので、ハチに向かいそうですが玄海ゆりの樹幼稚園副園長の義嗣先生と二人がかりで、それぞれ両手にスプレーを持って退散願いました。農業を長くされている方から、ハチが低いところに巣を作る年は台風が多いと教えられました。

新型コロナウイルス、水害、台風そして地震も忘れてはいけません。共通する準備は水や食料の備蓄です。備えあれば患いなしの気持ちで子ども達を守りましょう。

話は変わりますが、玄海ゆりの樹

「子育ては親育て、まずは大人が子育てのプロセスを楽しみましょう。プロセスを楽しめることができる人間に育てましょう」NO2

園長　髙杉　美稚子

４回目のコロナ緊急事態宣言の中での始園となりました。私達も心配なことも、不安なことも多く抱えながら、やらなければならないこと、やるべきこと、やりたいこと、断念せざるを得ないことの狭間の中で、できないことを嘆くのではなく、今、出来ることをしようという気持ちで、日々、集中、選択、決断の日々です。園児達、職員の為に、安全、安心な環境について考える毎日です。

この状況は、毎日、先が見えない子育てに、期待と不安を抱える保護者の方、特にお母さんのこれまでの毎日と同じ気持ちではなかろうかと思います。

最高の環境、最高の子育て、最高の教育を願い、考え、一生懸命頑張っても、子育ては長く、結果が見えないように、このコロナ禍の中では、何が正しいかかわからない、いつどのような状況が起きるかわからない、それは先が見えない、結果は何年後かにしか出ない、子育てに似ている状況、不安と同じであろうと思います。

そう考えるとき、この状況で何が出来るか、子育ても、コロナ禍も、今できることに精一杯向き合って、できることを、できるだけする、そのプロセスを、目の前にある課題を乗り越えたなら、どんな自分に成長していられるだろうと、生きるエネルギーに変えて生き抜くこと以外に乗り越える道はありません。

仏教の言葉に「諸行無常」という言葉があります。物事は移ろいやすく続かないということの意味ですが

「人生は諸行無常・・・　いいことは続かない。

いいことが続くときは　次に備えるとき

悪いときも続かない　だから忍耐が肝要

忍耐は苦しい・・・だから、目の前にあることに

一生懸命楽しんで取り組み　置かれた場所で咲こう

失敗したら　それも私　土でも草でもつかんで立ち上がろう

そこから学んで自分らしく咲き続ける！」

毎年配布していますが、今年度も３月にお配りする、私のミニ絵本の為に盆休み、吉塚のPCR検査の結果が出るまでの期間、何も仕事が手につかない時に、パステル画を書き、作った言葉です。１ページのみ紹介させていただきました。

どうやって、今を耐えたらいいのだろう・・・と思うとき、

やはり、ゆりの樹幼稚園の教育理念が礎（いしずえ）になります。

ゆりの樹幼稚園の教育理念のひとつに、「忍耐力が付くとは、頑張るとは」があります

「忍耐力が付く」とは、我慢することではなく精一杯楽しんで頑張って、終わった後に振り返った時、毎日、よく頑張ってきたなぁと思えた時、忍耐力が付いたことになる、だから、毎日精一杯楽しんで生きる以外に忍耐力が付く方法はない。
そうすると次に、いいことがやってくる。

「勇気をもって、前に向かって頑張る」ということは、一人で我慢して、
やり続けることではなく、人にかかわって、自分や人のいいところを
受け止めて、**『ありがとう、ごめんなさい、わからない、教えて、助けて』**を
伝えて、人を支えて、人に支えられて、助けて、助けられて、置かれた場所で
今、目の前にある自分で選んで決めた道と時間のプロセスを、
人と共に夢中で楽しんで、精一杯取り組み、自分らしく
生きていくこと。

そして、いつか、時がたって振り返った時、私本当によく頑張った!!とそのプロセスがどんなに情けない姿だったとしても、その自分をうけとめられること、そう思える自分がいることが本当に頑張るということ

「頑張るとは無理して一人で頑張らないこと、皆で支えあうこと」
人間は家族の愛、友達や社会の「人と人とのつながり」があるところでたとえ一人でも、へこたれず、諦めず本当に頑張れる。

このことを毎日心に刻みながら、コロナ禍が開ける日を待っています。
それまで、どうか、ご理解とご協力を宜しくお願いしたいと思います。

　では、前号の続きです。私はどうしてこんな少し、いえ、かなり大人びた怖がりの臆病な子どもに育っていったのでしょうか、の続きでした。両親は最大の愛を私にそそいでくれていたのにです・・・
　の答えですね。

　それは、私が父 45 歳、母は 42 歳の時に生まれた一人っ子であったからです。
両親は、子どもに恵まれないから、学校をやめて、幼稚園を創立しました。
その３年後に私が生まれたのですから、幼稚園に感謝ですね。

　幸い、以前にも書いたように、両親が、親戚がだれも世話をしないので、引き取ってお世話をしていた知的障がいの叔父と、幼いころから住んでいたために、
いつも、弟がいるの？　と聞かれることが多かったので、ずいぶん緩和されていたと、今では、この叔父に感謝するところですが、それでも、一人っ子ゆえ、
歳をとってできた子ゆえ、後継ぎゆえ、私に対する両親の期待と干渉はかなり強いものでした。

　そして、私は、父の期待に応えようと拡大し、頑張り続け、心配性の母の過剰な干渉に、怖がりで臆病な縮小した私でした。シーソーのように上下に、風船のように、大きくなり、小さくなり、振り子のように左右に揺れ動く、自分に疲れ、「自己一致した揺らがない私になりたい、私のように苦しむ子どもを育ててはいけない」が私の学びの始まりでした。

もちろん、両親は私をとても、とても愛して、大事に育ててくれ、私が 15 歳で３カ月の余命宣告を受けた時は「この子が亡くなるのではなく、15 年この子の親でいられたことに感謝しよう」といったポジティブで、動じない、穏やかな、前向きにいつも生きている両親であったにも関わらず・・・です。

可愛い、かわいい、大切な、大事な、我が子の為にと思ってしてしまうことが子どもを苦しめるなんて、両親は思ってもいなかったと思います。

なぜ親は、我が子に過剰に期待をし、過剰に干渉してしまうのか、

「過ぎたる親のかかわり、成功する子育ての条件」の本の中で、このように書かれています。それは子どもがかわいいあまり、親の気持ちの方が強くなって、親の想いが優先されて、子どもの心をそのまま受け止められないからと言われています。

なぜ、親が子どもの心をそのままに受け止められないか

子どもの心をそのままに「そう、辛かったんだね」と受け止められないのは、それを受け止めると、大人が自分自身の不安が喚起されるからにほかなりません。子育てで直面する問題は、子ども自身の問題ではなく親自身の問題に直面するからなのです。だから「子育ては自分育て」なのです。その意味において子どもは自分を写す鏡といって過言ではないでしょう。

私達、親は「子どもに良い子に育ってほしい」と願っています。しかしそれは誰にとって良い子なのでしょうか。私たちの子どもに対する良い子とは３つの側面があります。子育てをしている間、私たちは非意識下なのですが

① に「他者からみてよい子」に育ってほしい
② に「親である自分にとってよい子」に育ってほしい
③ に「真に子ども自身にとってよい子」であってほしい
といういずれかの思いが根底にあるのです。
「怒りをコントロールできない子の理解と援助」より

①は他者の目を気にしすぎるあまりに子どもをしかりすぎる「過干渉」「過期待」になります。
②は子どもがいつもニコニコしていないと落ち着かない、親自身が幸せを感じることが出来ない為に子どもを叱れない、その為に、子どもの規範、規律、いわゆるしつけが構築されない「過放任」「過許可」になります。これが親の過ぎたるかかわりです。

―親の五つの過ぎたるかかわりとは―

保護とは、子どもが望んでいることを、望んでいるときに、望んでいるだけ与えること、
過保護とは、子どもは望んでいるけれど、子どもが自分でやろうとすれば、十分できることまで、安易にこちらが手を貸してやってしまうこと、
過干渉とは、子どもが望んでいないことまでやりすぎたり、やらせすぎたりすることです。
過期待とは、子どもが自分に期待するのではなく、子どもが出来る以上に親が望むこと
過放任とは、子どもが望んでいる以上に放任すること
過許可とは、子どもが望んでいないのに許可を与えることだと私は考えます。

要するに、子どもが、そのことを望んでいるか、望んでいないか、がチェックポイントです。
だから、親の肌感覚、感覚の鋭敏性が大切になってきます。

「過ぎたる親のかかわり」を「成功する子育ての条件」の中では、このように述べています。

① 過保護とは、その根底に親の気分や、都合を優先させすぎる傾向があり、愛の押し付け、いわば、愛の一方通行となっているのです。具体的には「手のかけすぎ」となって現れます。その結果、最後まで自分でやり遂げたという「成就の喜び挫折の経験」の両方が少なくなります。うまくいかなければ、すぐ人に頼むような依頼心（依存心）の強いわがままの子になってしまいます。

② 過干渉とは、子どもに対する信頼感の不足が根底にあります。未発達であっても、一人の人間として信頼することが、人間関係の基本であることに気づいていません。更に、過干渉傾向の親は、神経質で、プロセスで学んでいることよりも、つい結果が気になってしまいます。具体的には、口の出しすぎとなって現れます。多くの場合、肝心なところで口を出すために、自分で選んだり、決めたりする体験が少なくなります。その結果、選択と決断の出来ない、人のせいばかりにする集中力のない子になってしまいます。

③ 過期待とは、先のことばかり、気になり、実態にそぐわない考え方が選考しすぎる傾向が根底にあります。さらに、この子のおかげで、親という役割を持てることに感謝する気持ちが低下しています。具体的には「期待の掛け過ぎ、ほめなさすぎ」となって現れます。その結果、次第に自信のない無気力な方向に進むことになります。

④ 過放任とは、根底に愛の不足と親としての義務の放棄があります。「そんなこといちいち聞くんじゃない、勝手にしろ」というような対応です。具体的には任せすぎ、手抜きのしすぎとなって現れます。愛と注目の決序は乱暴で冷淡、自分勝手な子になってしまいます。

⑤ 過許可とは根底に親としての認識不足による信頼の与えすぎと、親の義務の放棄があります。擬態的には「許可の与えすぎとお金の与えすぎ」となって現れます。共働きの親が祖父母に子どもを見てもらっているケースに良くあります。

その結果自制心や忍耐力のないわがままな子になってしまいます。
この５つに共通する特徴の第一は、愛と注目、承認の不足や欠如、
二番目には**選択や決断の大部分に親がかかわり、「授受の喜びや挫折の体験」が少ないこと**にあります。

三番目には、否定、支持、命令、禁止、比較、差別、
無関心などの態度が言葉となって現れ、受け手の子どもには、
不快な感情が習慣化しやすいのです。

（以上、「過ぎたる親のかかわり」成功する子育ての条件より）

人や親の目を気にして、過剰反応してしまい、「よいこのフリ」をし続ける。又は世話をしてほしくて、注目してほしくて、わがままを言う子どもが増えているといわれて久しいです。
そして、そのように育って大きくなった大人も増えているようです。

また、親が親であることを、自分を、子どもに認めてもらいたいために、子どもをわざわざ手のかかる子どもにし、その世話をすることで親としての満足感を得るという「代理ミュンヒハウゼン症候群」も言われて久しいです。

もちろん、親が自分を育てた時の年齢を考えれば、誰でも始めから親にはなれないのだから、親のその年に自分がなった時同じ言動、行動が出来るか成長を感じられるか、そうではない自分に気づけば、親もその育て方も受容できる。
親も子どもの時があったのだから、祖父母の影響を受けて育ったことは容易に想像できることだから、そのことが理解できれば、すべて受け止められるのですが・・・

「良い子の落とし穴」とはこのように親の「過ぎたるかかわり」を受けて、自分の感情を押し殺し、自分の思い、その時の感情をぴたっと止められるところにあるのです。本当は怒りを持っているのに、従順に「よいこのフリ」をしたり、純粋で、正直なのに「悪い子のフリ」をしてしまうのです。自分の感情、自分の思い、願いとは違う行動、言動をしてしまうことが、周りを振り回し、結果として自分を最もつらくさせてしまうのです。

だから行き過ぎた期待、干渉、心配をするとどうなるか「五つの過ぎたるかかわり」を親や、教育者は知っておくことが大切なのです。

ではどのような子育てがいいのでしょうか。

行きつく先は感情に気づく「ゆりの樹幼稚園の教育理念」になるのですが、次回はゆりの樹幼稚園が大事にしている「感情に気づき、受け入れることとは」から考えてみましょう。

吉塚ゆりの樹幼稚園の玄関に大樹が完成しました☆

輝く太陽目指し未来の夢に向かって、大樹のようにすくすくのびる子ども達・・・ゆりの樹幼稚園の願いです・・・

ゆりの樹幼稚園の名前の由来でもある、素直で、健やかに、力強くどっしりと大地に根を張り、まっすぐに伸びる

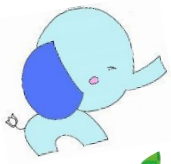
大樹の柱が玄関に完成しました！園児たちの成長みんなを温かく見守る幼稚園のシンボルの完成です！！

Before

施工してくださった方は、東京ディズニーランドでもお仕事をされ、ゆりの樹幼稚園の大樹完成後はハウステンボスのハロウインの準備に向かわれたそうです。芸術家気質の美術家が、腕によりをかけて作り上げられた世界です！！

After

まるでおとぎ話の世界に入り込んだような世界ですよ☆☆

季節ごとに果物も変化しますよ☆

かくれ「ゆりの樹の花」がどこかにありますよ☆
ぜひ見つけてみてください♪